



瑞雲

昭島市立瑞雲中学校
校長 山下 久也
令和4年 5月 6日

その瞬間を大切に

副校長 田中 晴恵

今年度より副校長に着任しました田中 晴恵と申します。瑞雲中学校の第一印象は、生徒の皆さんも、先生方も暖かい雰囲気のある集団であるということです。生徒たちがのびのびと活動し、居心地の良い学校づくりができるよう精一杯頑張っていますので、よろしくお願いいたします。

五月は1年の中で最も過ごしやすい季節だと言われています。校庭の木々も心地よい風にざわめいており、新しい仲間を歓迎しているかのようです。新年度が始まり、1ヵ月が過ぎました。新しい学級での新しい仲間との生活にも慣れてきたように感じます。

五月と言えば、童謡『茶摘み』の歌が思い出されます。「夏も近づく八十八夜・・・」この八十八夜とは、立春から数えて八十八日目、五月二日頃のことを指します。この頃を境目に、季節は夏へと移り変わっていく。お茶の新芽を摘む時期でもあります。

この時期のお茶は、新茶と言われ、短期間での収穫が必要となるため、大量に収穫することはできず、貴重なものとされています。お茶農家の方々は、この新芽を摘む時期を目指して、1年間準備し努力をしています。お茶の木に対して、水分や温度を調整することは、とても大変で気を遣うことです。そのような苦労の中、丹精込めて育てられた新芽で作られた新茶は、旨味成分が多く含まれています。この新芽を一生懸命摘む様子は、動揺『茶摘み』の2番でも歌われています。その後の茶葉で作られたお茶は、番茶と呼ばれ、新茶に比べてさっぱりとした味わいが特徴です。渋みもあまりないので、小さな子供でもおいしくいただけるそうです。

お茶農家の方々が、1年かけて良質のお茶を作るために準備をするように、何かに向かって準備をすることはとても大変ですが、とても大切です。十分な準備があつてこそ、大きな実り(成果)が待っているのだと思います。

新茶にも番茶にも、適した用途があるように、今準備をしているその力を発揮する最適のタイミングが必ずあるはずです。そのタイミングがいつであるのか、しっかりと見極め、日々の学校生活を送ることが大切です。

昨年度も、新型コロナウイルスの影響で様々な学校行事が中止や延期、実施方法の変更措置が取られ、例年通り・・・とはいきませんでした。今年度は、十分な感染対策の下、可能な範囲で、今まで通りの教育活動の実践を目指していきたいと考えています。

今年度も、保護者の皆様、地域の皆様のご理解とご協力を、どうぞよろしくお願いいたします。

新入生歓迎会が行われました

生徒会担当

4月12日(火)の5・6時間目に新入生歓迎会が行われました。通常体育館で行われるものですが、今年度も昨年度に引き続きソーシャルディスタンスをとるために校庭で実施されました。朝のうちに全校生徒には委員会と部活のパンフレットが配布され、風の吹く中2・3年生のパフォーマンスが繰り広げられ、新入生は興味深く見ていました。



この日から、新入生の仮入部も始まり、本格的に瑞雲中生としての生活が始まりました。2・3年生も新入生も立派な態度でのぞむことができました。



離任式

教務主任

22(金)の6校時に本校体育館で離任式が行われました。2人の先生がお忙しい中、来校されて、代表生徒による言葉と花束の贈呈がありました。お別れの言葉では感謝の気持ちや先生と過ごした日々を思い返し懐かしく思う気持ち、お別れを寂しがる気持ちが実に素直に表現されていてとても素晴らしい内容でした。私も司会をしていて胸がいっぱいになりました。

人生は別れと出会いの繰り返しです。良いお別れができてこそ次の良い出会いがあります。瑞雲中の生徒のみなさんが最後に良いお別れができて本当に良かったです。離任式を通じて、瑞雲中生、着実にまた1歩成長しました。



連絡メールの登録について

先月末に2回、連絡メールのテスト配信を行いました。まだ登録が済んでいない方、受信できなかった方は改めてご登録の確認をお願いします。